

2018年度 佐久長聖中学校 自己評価（中間評価）

学校教育方針	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して、豊かな教養、感性、心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 希望進路の実現をめざす。 3. 教職員の指導力を高める。 4. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。	1. 生徒の様々な意欲をより高めることのできる学校づくり ・学習・生活・課外活動・館などすべての分野で、指導方法を模索し、質を高める。 ・生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 2. 生徒の安全と安心の確保 3. 「6年一貫教育」の意義の再確認・再構築

評価	A	十分
	B	概ね十分
	C	やや不十分
	D	不十分
	E	評価できない

分野	評価項目	評価の観点	評価	成果(具体的に何ができたか)	今後やるべきこと、実施に当たっての問題点
学習指導	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。	B	・授業後の振り返りシートや学期末の授業アンケートで、生徒の理解度を確認し授業改善に努めた。 ・理解が不十分な生徒には発問を変え、授業に参加しやすい雰囲気作りに努めた。	・生徒が自分のできないところを自己確認できる仕組みを作ること。 ・下位層を注目がちなので上位層にも目を向けたい。
	教科指導力の向上	2 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。	B	・生徒同士での教え合いや話し合いを行わせ、生徒の考え方や視野を広げる機会を設けた。 ・授業で上手くいかなかったことを教科会で共有し、授業改善に努めている。	・他教科の授業を相互に参観機会を増やすことが重要。 ・教師全員がアクティブラーニングの手法を正しく理解すること。
		3 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。	A	・模試データを元に、できなかった分野の問題に繰り返し取り組ませた。 ・データから自らの考えを表現する力が不足していることが分かり、授業内で表現する機会を粘り強く設けた。	・教科担当と学級担当との協力体制をより密にしたい。 ・高校進級後の学力についても確認し、今後の学習指導の参考にする。
		4 (学級担任として)生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。	A	・年2回の個人面談のほか、生活記録で学習時間や内容を確認し、考査前・考査後に個人面談を実施した。 ・個人面談を月に一度行い、生徒の学習やクラブ活動の状況を確認している。	・定期的な面談以外に個々の状況に応じた面談を随時行う。 ・きっかけがあれば大きく変われる年頃なので声がけを続けていく。
	学習習慣の確立と自主的な学びへの導き	5 (教科担当として)学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。	A	・学習したことを次時のドリルで確認し、その結果で課題の質・量を決定した。 ・課題を毎日課し、ノートをチェックしアドバイスをした結果、家庭学習が習慣化できた。	・自ら必要な課題を考える力を身につけさせたい。 ・苦手な生徒が学習しやすいように、週末基礎的な内容の課題を出す。
		6 生徒が自主的に取り組んだり探求したりする力をつけるための課題や学びの機会を、工夫して提供しているか。	A	・考査前は自由課題として生徒に考査予想問題をやらせ、それを添削している。 ・課題解決を行う過程で新たな疑問が生じるような授業展開を目指している。	・さらに生徒が興味を引くような導入の工夫や学習課題の設定。 ・実験の回数を少しでも増やし、理系離れを少なくしたい。
進路指導	希望進路の実現	7 学級担任・教科担当として6年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。	A	・中高合同教科会で、高校3年で結果を出すために中学のうちで何を実施しておくべきなのか検討した。 ・LHRの時間を使って大学や入試についての情報を与えている。	・生徒自身が活動を作り上げていくという経験をさせていきたい。 ・探究心旺盛な生徒のためのプラスアルファを考えたい。
	新しい時代を展望できる進路指導	8 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。	B	・自分発見やクエストなど、精選し系統立てられたキャリア教育が行われており、集団や個の力の熟成がなされている。 ・文教講演会では「生き方」について考えさせることができた。	・プレゼンテーションに向けた洞察力・思考力・伝達力育成のサポート。 ・「道徳」について計画的に取り組んでいく必要がある。
生活指導	自律的生活の育成	9 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。	A	・クラスや学年であったことを共有させ、各自に考えさせる機会を作った。 ・学年集会や学年ルーム長会を実施し、学年の問題点について話し合わせた。	・生徒同士での働きかけを促す方法を考えたい。 ・心の指導、他人を思いやることをもう少し力を入れたい。
	生徒相談といじめの発見・対処	10 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。	A	・部活動で書かせている日誌で気になることがあれば、担任や館職員と情報共有している。 ・多くの先生に相談できるよう、普段からコミュニケーションをとるようにしている。	・普段から生徒の情報を共有しながら指導にあたりたい。 ・生徒指導的な側面からは情報を一元化してまとめていく必要がある。
		11 現在の「いじめ」の定義(注)に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。	A	・日頃から気がついたことを担任に伝えるように努めている。いじめの定義については学年会でも確認した。 ・生活アンケートを実施し、学年会や職員会で早めに対応している。	・まず現場にいる人がその場で注意することを怠らない。 ・生徒アンケートは各学期1回ずつは実施していくようにしたい。
	安心・安全を守る指導、安全を考えた指導	12 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。	A	・朝のHRを見廻り、生徒の様子を観察すると同時に、教室環境も見るようにしている。 ・館内で事故が起こらないように生徒の自室の片付けを指導している。	・様々な面で安全な学校にし、保護者の信頼を得たい。 ・緊急時マニュアルの確認を怠らず、年1回は行いたい。
13 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。		B	・HRで具体的事例を話し、どのように関わっていくべきか考える機会を作った。 ・保健日よりでネットトラブルについての情報を提供し、注意喚起をすることができた。	・インターネットの危険性に対する生徒の意識はまだ低い。 ・SNSについてなど、外部講師による教育を学校全体でしていくべき。	
開かれた学校	開かれた学校づくり	14 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。	A	・帰宅書でいただいた意見は職員間で共有し、対応すべきものはすぐに対応している。 ・保護者や地域の方からの要望に真摯に耳を傾け、速やかな対処を心がけることができた。	・地域と保護者の願いでもある進学実績を上げるために努力したい。 ・保護者からの要望には今後も誠意ある対応をして協力を得たい。
		15 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。	A	・ホームページをスマホ対応とした。 ・通信類を定期的に発行している。 ・オクレンジャーとClassi、ホームページの3つの媒体を重要度に応じて使い分けながら情報提供している。	・情報の発信方法を学んでいきたい。 ・教科通信も発行したい。
		16 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。	A	・中国や台湾の中学3校との学校交流の機会を設けた。 ・美化委員会中心に祇園祭後に岩村田商店街の清掃活動を実施した。 ・職場体験は地域の方との交流の機会ともなった。	・海外の学校との交流は今後も積極的に続けていきたい。 ・文化祭で地域の方との交流ができる企画を検討したい。

(注)一定の人的関係がある生徒の中で、一方が他方に心理的・物理的な影響を与える行為をして、対象となった生徒が心身の苦痛を感じていること。一時的なものや謝罪して解決したものも、「いじめであった」と考える。